

出日本キリスト教会大阪北教会

2016年10月16日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書14章1～9節

14:01「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。 14:02わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。 14:03行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。 14:04わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」 14:05トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。」 14:06イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。 14:07あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知るようになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」 14:08フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、 14:09イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。

《説教》『心を騒がせるな。神を信じなさい。』

◆只今、主の御前で、洪 新(ホング シン)ちゃんの小児洗礼式を行いました。洗礼とは、その身を十字架に死に給うて甦り給うたわたしたちの主イエス・キリストの御手にお委ねすることです。洗礼の恵みに代わる幸いはこの世にありません。新ちゃんのこれからの人生にも人並にいろんなことが起こります。しかし、主イエス・キリストの御手に委ねられた新ちゃんの人生は、常に、永久に、たとえ死んでも死なない主イエス・キリストの御手の内にあるのであります。今、お母さんの洪 愛姉が、新ちゃんを主イエス様の御手にお委ねになりました。肉親がわが子に出来る、これ以上に善い行いはありません。それで今日の聖書の箇所ですが、ヨハネによる福音書を読み進むに従って、この福音書の持つ奥深さと真実さを皆さんも感じておられる事と思います。今日の箇所は、いわゆる『最後の晩餐』の席におけるイスカリオテのユダの裏切りの予告、そしてシモン・ペトロの否認の予告の記事に続く、主イエスの御言葉であります。

◆皆さんが、礼拝に出席される時、受付の掲示板に張ってある、レオナルド・ダヴィンチの『最後の晩餐』のカレンダーを見られることと思います。帰りにもう一度注意して見ていただきたいと思いますが、12人の弟子たちがお互いに顔を見合わせて「あなたがたのうちにわたしを裏切る者がいる」とイエス様が言われたので、お互いに顔を見合わせている絵なのです。そういう次第でありまして、弟子たちの驚きの様子がよく描かれております。「一体、誰がイエス様を裏切ったりするだろうか」と云う驚きがよく描かれております。続いて、今度は、イエス様は名指しで、弟子の筆頭格であるシモン・ペトロに向かって、「はっきり言うておく。鶏が鳴くまでにあなたはわたしのことを知らないと言う。3度

わたしのことを知らないと言う。」今度は名指しで言うておられます。弟子たちは「裏切る者」とは「ペトロ」のことだったのかと、みんなは思ったと思いますね。けれども、この言葉に先立って最後の晩餐の席から出て行った「イスカリオテのユダ」の事をイエス様はおっしゃったわけでありませぬ。

◆このようにイエス様が「あなたがたの中にわたしを裏切る者がいる」と言われ、そしてペトロには、「あなたは鶏が鳴くまでに3度わたしを知らないと言う」と、こういうふうにはイエス様がおっしゃるといふのは、尋常なことではありません。ですからこの言葉を聞いた後の弟子たちの様子は、思い煩うとか、思い悩むとかいう、そんな生優しいことではなくて、本当に彼らは恐れた、そういうレベルのことだと思ひます。それにしましても、わたしたちはこの福音書を読んできまして、イエス様と弟子たちとの交わりを、羨ましく思うくらいのものでありますけれども、さて、ここに至ってイエス様の御言葉きびしさ、率直さは、目を見張るものがあります。今までのイエス様が心中に抑えておられたことを、ぎりぎりのところで吐き出された。そういう感じがするわけですね。主イエス様は、弟子たち一人一人の心中を見抜き、見通しておられるのです。

◆しかしイエス様のこの厳しさは、イエス様ともあろうお方は先の見通しを持たないで、このように切つて捨てるような言葉をおっしゃるようなお方ではないということ、私たちが自身の経験でよく知っているところでありませぬ。それにしてもイエス様の御言葉は非常に厳しいものがあります。私たちの現実、今後の歩みを見通しておられます。正に、主イエス様は、神その方であら、私たちのあるがままの姿、心中の思いを見抜いておられます。私たちの人生というものは正にこのような神様、イエス様の御目の真下で、私たちの日々、すべての時間があるわけですね。

◆先週柏木教会で第66回大会がありまして、私たちは非常に思い課題を背負わされました。日本キリスト教会はこのままでは駄目だと、青年牧師が、『全国青年の集いに関する建議案』の審議の際に、発言しまして、「今や、日本キリスト教会における青年は絶滅危惧種です」と、そんな表現さえたのです。つまり、信仰を継承する者が本当にいなくなっているのだという危機感の表明ですね。そして我々高齢者・手渡す者も次々に召されていきます。しかしこの現象は、在日大韓基督教会でも同じですと、来賓で来られた代表の方が言われました。在日大韓基督教会は、戦前から、在日の方たちが主になってできた教会ですから、最近になってできた教会とは違ひます。ですから体質は「日キ」とよく似ています。しかしその代表の方がいわれました。ところがこの傾向は、盛んな教会成長が言われてきた、本国の韓国においても、最近では、毎年2万人、3万人と、教会から離れている。カナダの教会でもそうだと新聞に出ていました。ですから今や教会の衰退が全世界的のものになっていると言えるようですね。ですから、日本キリスト教会だけがそういう状態なのだということではありませぬけれども、今申しましたように、私たちは本当に子どもたちや、孫たちに手渡すもの、信仰のレガシーは、正に主イエスの御手にお委ねするという、このバプテスマの恵みに代わるものはありません。そのような中で今日小児洗礼式を行うことができたことは本当に感謝すべきことだと思ひます。

◆それで弟子たちは、主イエスの御口から出る実にストレートな御言葉によって、非常に

動揺しております。「わたしを裏切る者がいる。」「ペトロよ、あなたは三度わたしを否認する。あなたがたはわたしの行くところにはついて来れない」等々。これらは誠に厳しい御言葉なのですが、今、主イエス・キリストが進み行かれようとされるその道は、正にそれこそ前人未踏の道に分け入って行かれるわけであります。ですから、誰もついて行けないのです。ですから、誠にこの上なく厳しいことを言われるのですが、イエス様は、御自身の歩みの先を思いつつ、真実なことを弟子たちに言っておられるわけであります。◆それにしましてもわたしたちの人生は厳しいものがあります。そして今本当に弟子たちは動揺し恐れています。しかしながら、わたしたちの主イエス・キリストという御方を、お遣わし下さった、わたしたちが本当に信じるところの神様は、わたしたちが何者であっても、このようなわたしたちのために最善の未来を備えていてくださいます。わたしが7、8年前にジョアンナさんをモンタナのポルソン教会にお訪ねした時の帰りの飛行機の中でたまたま目付けた冊子の言葉を、それ以来、週報の欄外下に印刷して載せております。

<We know not what the future holds, but we do know who holds the future.わたしたちは未来に何が起きるか知りません。しかし未来を支配している方を知っています。>この1句は聖書のどこかにあっても遜色のない信仰者の言葉だと思います。そして、この未来を支配しておられるお方は本当に善なる御方であります。

◆それで2年前の春に、10回くらいで『バルメン宣言』の講解説教をいたしました。これは、1934年5月31日にドイツの諸教会が教派を超えて、一緒になって緊急会議を開いて、決議した信仰告白で、普通『バルメン宣言』と呼んでいるのですが、中身は、6つの信仰箇条からなっています。その第1の箇条、普通、第1テーゼと言いますが、このバルメン宣言の最初に、ヨハネによる福音書14章6節の御言葉を掲げています。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければだれも父のもとに行くことができない。」このみ言葉を掲げて、これをわたしたちはどう受け止めるのかということが次に続くわけです。「聖書において我々に証しされているイエス・キリストは我々が聞くべき、また我々が生と死において信頼し、服従すべき神の唯一の御言葉である。」それにしても、この信仰告白は、バルメン宣言は、その告白の最初に、なぜヨハネ伝の子の言葉かと、引っ掛かりを覚えていたのですが、今回、そのわだかまりが解消いたしました。このバルメン宣言の起草者の中心になった人は、カール・バルトという人ですが、この神学者は、本当に聖書を読み、教会の歴史を調べ、世々の教会の信仰告白を实によく読んで、彼は『教会教義学』というすばらしい本を書き上げた人です。その敬愛すべき信仰の先達が、「わたしは道であり、真理であり。命である、わたしを通らなければだれも父のもとに行くことはできない」というこの御言葉に行きついて、そしてこう告白するのですね。「聖書において我々に証しされているイエス・キリストは我々が聞くべき、また我々が生と死において信頼し、服従すべき神の唯一の御言葉である」と告白するのです。この信仰で第二次世界大戦中のドイツの教会の危機、国家の危機、世界の危機の中で、我々のよって立つべきところはこれしかないという信仰告白をしたのです。今日の聖書の箇所における、その時点におけるペトロや十二弟子たちは、その時点では、1934年に教会が告白したこういう信仰告白はできなかったのです。「何故、先生を裏切ることがあろうか。なぜイエス様を否認することが

あろうか」と、主イエス様の言われることを、納得することはできませんでした「どうして、そんなことあるのでしょうか。どうして先生の行くところへ、わたしたちはついていけないのですか。」こういうふうに言っています。ですからイエス様のおっしゃるところの、本当の教えというのは、今日の聖書の時点における弟子たちにはわかりません。しかし、わたしたちもそれぞれの人生を歩んできて、わたしたちが本当に聞き、信頼し、服従すべき御方は、ただ主イエス・キリストのみ。この神の唯一の御言葉のみ、という思いを私たちは強くしていると思うのですね。この信仰を、あの時点において、ペトロは、「あなたのためなら命も捨てます」と言いましたけれども、その時点では無理だったのですね。

◆しかし本当に「道であり、真理であり、命であられるイエス様」はこの後、翌日には、十字架にかかれるのです。そして3日目によみがえられるわけです。そして弟子たちに現われ給うた時、弟子たちはやっとイエス様は本当に真実なことをおっしゃったのだということを受け止めて、彼らも再起して行くわけですね。ですからその直前は厳しい。だけど今日の箇所ではイエス様は、こう言われます。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」本当に慰め深い御言葉ですけれども、これも弟子たちには、その時はわからなかった。だから弟子たちを代表してトマスが質問するわけです。こういうふうなところが今日の箇所であります。わたしたちは、昨年から今年にかけて3人の姉妹を主の御許に送りました。竹村好香姉、御牧弘子姉、そして丹後のぶ子姉です。皆様もよくご存じのように、三人三様の地上の歩みでありました。しかし、お送りして気付いたことは、神様は、本当に善き備えをなして、三人の姉妹を、ご自身の御許に召してくださったのだということを実に強く覚えて感謝いたしました。ですから、わたしたちも段々に老いて、終いの住処にといっても、それも容易なことでありませんが、終いの終いの住処は、イエス様が私達各自に最もふさわしい住処を用意して下さいます。

◆「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」神の唯一の御言葉であられるイエス様がこのように約束して下さるのです。全てを御手にお委ねして、主に従ってまいりたく思います。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたは御独り子イエス様をさえ、惜しまず、わたしたちの救いの為に捧げて下さいます。本当に、あなたが私達を心底顧みて下さる事を覚え、心から感謝いたします。どうか、あなたの善き御心が、この地に、この世界になりますよう、私たちも、主イエス様に従い、身を惜しまぬ僕として、歩ませてください。この祈り、主イエス様の聖名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。